

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぶし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 美沢	管理者	佐藤佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	1人	1人	2人	3人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●美沢地区（センター周辺 3丁目・4丁目を中心に）での「まちなね」や、事業所での少人数な介護教室の開催等を検討していく（地域でニーズや意見を取り入れながら内容を検討していく）。また、広報にも「まちなね」の情報を盛り込み、地域に回覧し、啓発活動に繋げていく。 ●職場研修（勉強会）などの報告がペーパーのみになりがちのため、伝達研修のやり方を工夫する。また、実技等の研修も取り入れた新たな工夫を検討していく。 ●ケース記録を書く際には件名やタイトルをつけ、ケース記録を開いた時、一目で内容が分かるような工夫行っていく。 ●ご利用者の生活状況がわかるように、情報収集したものを整理し、日々のケアに結びつけ、住み慣れた自宅での生活のサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報に、「まちなね」の情報を盛り込むことは出来なかった。広報の有効な活用方法について検討が必要であった。 ●なかなか美沢地区で「まちなね」を開催することが出来なかった。 ●ミーティングの時間を使い研修報告など行っているも、それに参加できないと、結局書面だけの報告で終わってしまう（積極性に欠けていた）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報共有の為ミーティングやノートの使用とあるが、それが上手く活用されていないという意見が多かった。今一度整理が必要なのではないか。伝えて実施しなければ意味がない。 ●訪問時間と、必要とする時間が合わないとあるが、ケースの見出しの活用しすぐ改善できると思う。より近いパターンで考えていく必要がある。 ●訪問時間に関し、歩み寄れるところを探してより良いタイミングに近づけていくと良い。プラン通りにいかないこともあるが、小規模が目指す「柔軟な対応」につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日勤者が出勤後、出勤者全員で申し送りを行い、ノートの記載内容や利用者の様子など確認していく。また、業務前に、日誌・ノート確認し各自でも情報収集しサインする（ノートに氏名サイン欄を設ける）。当日の送迎表の特記欄に特変あった利用者の氏名を記載し、各自ケースの確認を行い情報を共有する。 ●ミーティング用のノートを作成し、議題などあればその都度記載し、それを基にミーティングにて話し合いを行い改善していく。 ●ミーティングやモニタリング時、サービス内容や訪問時の援助内容・訪問時間など適正か話し合い・評価していく。またミーティング後期間を決めて再評価を行い、その結果もミーティングノートに記載して、より良いケアに繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●看板の設置以外に、環境美化（花や花壇の設置など）やイルミネーション、ウッドデッキの活用などで入りやすい事業所の雰囲気作りに向けた工夫を行っていく。 ●コミセンにも行事のポスターや広報の掲示を依頼し、美沢地区に回覧する等周知できるやり方を考えていく。 ●駐車スペース小さく、入りにくい一因になっている為、改善に向けた意見交換等行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●花壇の設置などは行っているが、ウッドデッキの活用等は十分ではなかった。 ●行事の際、コミュニティセンターにポスターの掲示の掲示依頼をしたり、回覧板を活用する等は出来ていた。 ●駐車スペースの問題は改善されなかった（意見交換等も行っていない）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●玄関付近が、ごちゃごちゃしている印象あり、入りにくいのではないかと。もう少し工夫し整理整頓を行った方がよい。 ●環境美化=入りやすい事業所につながるのか、よくわからない。地域の人達の意識が向くような工夫が必要なのではないか。入りやすい事業所のためには、パンフレットなどだけでなく工夫も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車位置や玄関等の配置や整理方法、飾りなどそれぞれの部署で担当をつけ、センター全体で話し合いを持ち過ぎしやすい環境作りを行う。 ●計画的にセンター前や裏手の土手に花を植えたり花壇を設置するなどして、センター全体で環境美化に取り組む。また、地域のクリーン作戦時に、地域とスタッフ、ご利用者と共に環境美化を行っていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●町内会の行事やコミュニティセンターの企画などに積極的に参加していく。 ●クリーン作戦時、広報やセンターの案内などを配布し、「地域の相談窓口」の役割をしている事業所であることを紹介していく（わかりやすいパンフレットの作成する）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣のコミセン祭りや、芸能発表会などに参加すること出来た。 ●新たに分かりやすいパンフレット作成し、クリーン作戦時などに配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パンフレットに地図が記載されているが、初めての人や土地勘のない人には分かりにくい。もっと分かり易い地図を作成し載せたほうが良い。 ●文化祭の際など地域の方からの作品を展示（多趣味の方などいられる）、センターに訪れるきっかけになるのでは。また、作品展示を話題に、地域でも声を掛けやすい。 ●パンフレットなど伝えたいことが多く、字が多くなってしまふ為、工夫が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣地域に広報活動を継続し、センターの周知の輪を広げていく。 ●広報（美沢だより）を回覧板で地域に回したり、コミセン等に掲示してもらい、地域の方にセンターの様子や取り組みを知ってもらう （広報の内容は工夫の必要あり。地域の相談窓口であることや“まちなね（地域での介護教室）”の取り組みについて記載、分かり易い地図の作成など）。また、文化祭などでコミセン祭りで展示された作品や地域の方の作品を展示させて頂けるように働きかけていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員と日常的な情報共有を図り、日々の関係作りを強化していく。 （「まちなね」を有効に活用していく。また、広報に「まちなね」の活動報告や、次回の案内などを記載し、回覧板などを活用し、地域へ情報公開していきながら、町内や民生委員との連携の場としていく） ●送迎時や訪問時など、ご利用者以外の周辺住民の見守りを意識しながら「地域の見守り体制」の一員として意識づけしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員とは関わりを持たず、情報共有まで行きつかなかった。 ●広報（美沢だより）に「まちなね」の内容を盛り込むことは出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員との関わりが少ない（勉強会に参加したと説明あったが、民生委員の会議に参加させてもらえるような働きかけが必要）。 ●サービス以外の地域の見守り活動できていないとの話しがあったが、実際問題、送迎時などの時間に周囲の見守りは難しいのではないかな。 ●認知症サポーター養成講座は敷居低く、地域の方は参加しやすい。よってセンターでも開催を検討してみてもどうか。またその際、送迎付きなど物理的にセンターに来て頂けるような方法を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町内会や民生委員の集まる会議に参加する機会が持てるように働きかけ、このセンターも地域を支えていく一員であることを認識してもらう。 ●地域への外出の機会を積極的に計画・実施し、地域との関わりを作っていく（ご利用者が生活している地域の行事を再度確認する）。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括センターとの連携を強化し、相談窓口であることを広報など使いながら、情報発信していく。 ●地域住民が気軽にセンターに来られるように環境美化や、駐車スペースの工夫を行っていく。 ●運営推進会議を通して、事業所や地域の課題の意見交換をしながら、共に考えていく場作りしていく。 ●地域ではこんな問題がある、困っていることがある等運営推進会議の場で話を聞き、地域の情報を把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに作成したパンフレットには相談窓口であることを記載し、クリーン作戦時など地域の方に配布し、情報発信できた。 ●駐車スペースの工夫は出来ていないのが現状。 ●外部評価の話し合いの中で地域の方などから、地域の現状や困っていることなどの意見を頂けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ターゲット層、地域のニーズの把握が必要なのではないかな。何か取組みを行う際、誰を目的にしているか分からないと、上手く伝わらない（パンフレットなどのターゲット層がはっきりしないと観てもらえない）。また独居・単身向けか、核家族向けなのか、明確化しニーズに合った勉強会の実施や、広報の作成が必要かと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●異動等で運営推進会議がどのようなものを理解していないスタッフもいるため、様々なスタッフが参加できるようにし、この会議で何を活かしていけるのかを考える機会とする。 ●どのような方法で、組織からニーズを求めるかをしっかり把握し、そのうえで地域のニーズをしっかりと分析し、必要なニーズを地域と共に寄り添い、支援できるのかを考える。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の種類（地震など）によっては、一時的にセンターに避難できること（福祉避難所としても）を回覧等で地域の人に知ってもらう。 ●地域の防災関係の研修に参加する機 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉避難所としての役割等を広報で一時的に知ることが出来なかった。 ●災害時の勉強会を開催した（自家発電機の使い方レクチャーや食料等の備蓄場所や内容などについて）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時等の「頼り」とは何の頼りかよく分からない（頼りの対象が分かりづらい）。今後協議して、整理していく必要があると思う ●災害の種類によって、対策や頼りの 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターのパンフレットに一時的に避難できる場所であるということに記載する。また、地域の方へ回覧する文章や広報（美沢だよりなど）にその文章を盛り込み、地域において周知でき

	<p>会を通しスキルアップに努めていく。 また、ミーティング等を使い、学んだ知識を共有していく。</p> <p>●町内会との防災意識を共有していくためにも、事業所内外の防災訓練への参加を試み、意識の共存に努めていく（防災訓練の案内は町内回覧を活用していく）</p> <p>●町内会長と相談しながら防災計画・訓練を行っていく（訓練の曜日も検討していく）。</p>	<p>●町内の方と共同で防災訓練等を行えていない。</p>	<p>対象が違ってくるのではないか。</p> <p>●（最近作られた）市の防災計画に福祉避難所として入っていれば、スタッフも周知し、それを発信していかなければならないのではないか。</p>	<p>るようにする。</p> <p>●地域住民との防災訓練を共に企画し、協力し合える関係作りが出来るようにする（地域住民に福祉避難所としての役割をセンターが担っていることをその都度伝えていく）。</p>
--	--	-------------------------------	--	---